

令和4年度 長野県林業大学校 評価表

評価 A：目標を上回った B：ほぼ目標どおりできた C：目標を下回った

長野県林業大学校 教育方針	
<p>長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。</p>	
<p>1 一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための 全人教育を行う。 2 大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。 3 実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。</p>	

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す	日本一の林業大学校を目指すためには、他校に比べ抜群に優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となる。しかしながら、それは多大なる予算措置を伴うものとなりコロナ禍の状況では非常に厳しいのが現状である。本校では、講義内容の徹底した検討と、他校や企業などとの連携協定などにより、資産や施設・機械装備をより効率的に利用することで、より高いレベルの教育内容を実現している。		B
今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進	<p>○これまで以上のレベルを意識した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しを教務会議で随時検討している。</p> <p>○国内・世界最高レベルのチェーンソー技術の取得を目指すJLC(「日本伐木チャンピオンシップ」)が5月21・22日に青森県で開催され、学生代表でジュニアクラスに4名、レディースクラスに3名の計7名が参戦し、決勝大会でジュニアクラス2位が1名、レディースクラス3位が1名と、優秀な成績を収めた。</p>		A
器具・機械の更新、学習機材・機器の整備及び演習林の整備	<p>○高性能林業機械については、一昨年度購入のフォワードに続き、昨年度はフィンチ付グラブを9月に購入、実習のレベルが格段に向上した。</p> <p>●高性能林業機械のシミュレーター、チェーンソーの雨天練習場については予算が認められなかった。</p>	引き続き、機材等の整備の必要性を丁寧に説明しながら予算要求していく。	B
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	<p>○地元企業等から構成された「我ら林大応援団」が設立され、地域を挙げて林大を支援していく組織が立ち上がった。</p> <p>●令和3年7月に延長した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」により、高度な高性能林業機械操作実習を計画していたが、コロナ禍で実施できない状況である。</p> <p>○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア様との教育協定に基づき、国内最高レベルのチェーンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を6月と10月の2回実施した。</p> <p>○岐阜、京都との3林大のチェーンソー技術競技が11月に岐阜で開催されたが、本校はコロナ陽性者が複数発生したため、参加を取りやめた。</p> <p>○昨年度から実施している上松技術専門学校との連携について、今年度も2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を12月、1月の3日間上松技術専門学校で実施、本校にはない高度な木材加工技術の取得に取り組んだ。</p>	新型コロナウイルス感染拡大の収束を見定めながら高性能林業機械操作実習を計画するとともに、本年度は代替実習としてシミュレーターを活用した実習を2日間にわたり行った。	B
2年生の進路の早期確定と2023年度入学志願者の確保	<p>○一年次から面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定できるよう促してきた。またインターンシップや会社訪問などを本人の希望等を尊重しながら実施し、自身が納得した上で就職先を選定できるよう働きかけ、12月末には全員の就職が決定した。</p> <p>○公務員志望者に対しては、教職員がそれぞれの担当分野について放課後に対策講義を実施した。</p> <p>○6月～7月上旬にかけて、県内11の公立農林系高校の全て、近年の受験実績をらまえた33の公立高校への学校訪問を実施し、本校への受験を促すとともに、本校の見学を希望する学生や保護者、計9組に対応した。</p> <p>○コロナ禍ではあったが会場を分ける等適切な感染予防対策を講じた上で、1回目(7月30日)と2回目(8月28日)の計2回「オープンキャンパス」を開催し、入学を希望する者には個別相談にも応じた。(1回目40名、2回目39名が参加(保護者家族を含む。))</p> <p>○こうした取組の結果、2023年度の入学志願者は推薦・一般併せて40名と、前年度の31名を9名上回る結果となった。</p> <p>●一方で女性の入学志願者は40名中1名にとどまった。女性の志願者、入学者の確保が課題となっている。</p>	令和6年度入学の学生募集に向け、学校案内パンフレットの中で女性(在校生・卒業生OB)の活躍をPRする等の方法を検討していく。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【継】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。	○アンケートや小テスト等により、学生の理解度を把握し、実物や写真等を活用することで、学生の興味を引く授業を展開している。 ○コロナ禍に対応して、より広い面積が確保できる講堂及び製図室を教室として使用するとともに、タブレット端末の個別貸与により学習環境の向上を図った。 ○コロナ陽性となり自宅で療養中の学生に対しては、ZOOM等を利用して講義を中継しリモートで受講してもらえるよう工夫した。		B
			【継】学生が、自ら考える力を習得できるよう指導できたか。	○学生の自主性を重んじる「自主研究」の充実を図るため、教務全員で学生個々の課題の指導に取り組んでいるほか、林業総合センターの研究者や地域の炭焼き名人などからの指導も取り入れた。 ○一昨年度から新たに位置づけされた、演習林をフィールドとした自主研究活動が展開されている。		B
			【継】現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで最高レベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。 ●地元林業士の人数が減少し、今後指導体制が弱体化する可能性がある。	林業士の不足に対し、地元森林組合など地域内外からの人材支援を図る。	B
	既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進や、現場で使える知識、技術、時代変化に対応し、林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが図られたか。	○現場からのニーズの変化に対応し、県担当課と連携しカリキュラムの変更を検討している。		C	
		【新】卒業生、在校生、保護者へのアンケートを踏まえ、県担当課と今後の本校の目指す姿を含めた新たな授業内容を検討できたか。	○県担当課と2回にわたりアンケート結果を踏まえた協議を実施。 ●産業界からの要望を踏まえて検討することとされたため、県担当課が8月に林業・木材産業8社から、林大に求められる人材についてヒアリングを行ったところ。	関係者や産業界へのアンケート・ヒアリング結果を踏まえ、県担当課と連携し授業内容の検討を進めていく。	B	
	効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【継】他大学、地域（木曽青峰高校を含む）、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	●令和3年7月に延長した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」により、高度な高性能林業機械操作実習を計画していたが、コロナ禍で実施できない状況である。【再】 ○平成29年5月に締結したハスクバーナ・ゼノア株との教育協定に基づき、国内最高レベルのチェンソー技術者から講義を受ける「トップガン講習」を6月と10月の2回実施した。【再】 ○岐阜、京都との3林大のチェンソー技術競技が11月に岐阜で開催されたが、本校はコロナ陽性者が複数発生したため、参加を取りやめた。【再】 ○昨年度から実施している上松技術専門学校との連携について、今年度も2学年の選択コースのうち「木材利用学」の実習を12月、1月の3日間上松技術専門学校で実施、本校にはない高度な木材加工技術の取得に取り組んだ。【再】 ○2学年の選択コースのうち「木造建築構造概論」を岐阜県立森林文化アカデミーで実施、主に木造住宅の耐震構造について専門の講師から学んだ。 ●木曽青峰高校との連携については、今後連携可能な項目の洗い出しを行い、具体的な活動内容を検討していく。	新型コロナウイルス感染拡大の収束を見定めながら高性能林業機械操作実習を計画するとともに、本年度は代替実習としてシミュレーターを活用した実習を2日間にわたり行った。	B	
		【新】フォレストバレー構想に基づく三校連携を図るため、協議会の場などで今後のビジョンの方向付けが出来たか。	○8月4日に第1回の木曽地域三校連携推進会議が開催され、各校の紹介と、進路状況についての議論が交わされた。 ●木と森林の文化が育まれた木曽地域で、人材育成を目指す三校の連携を更に深めていく必要がある。	今後、推進会議での議論を通して、三校連携で取り組める内容を具体的に検討していく。	B	
	進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】・1年生は12月末を目途に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】・2年生は2月末を目途に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】・円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○1年生は個人面談やインターンシップ等により希望を把握し、就職に向けての具体的な道筋を指導している。 ○2年生は個人面談の充実と、就職活動における面接練習や履歴書作成指導などで職員がバックアップし、12月末までに全員の就職先を決定できた。 ○インターンシップを実施することで、就職先とのマッチングを深めた。		B
		個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】・就職ガイダンスや企業合同説明会、林業労働財団就職説明会などを通じて、円滑な就職への取り組みができたか。 【継】・会社等とのマッチングの仕組みは検討できたか。	○学生の希望を叶えるための個別相談を積極的に行った。 ○公務員対策特別講義など充実させた。 ○インターンシップの実施や就職説明会への出席を促すことにより、会社等とのマッチングを図った。		B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育活動	進路指導	就職・進学の情報提供	【継】・学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームルーム等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。		B
		社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成	【継】 規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【継】 教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○コロナウイルス感染防止の観点から、マスク着用、手洗い・手指消毒、換気、ソーシャルディスタンスの徹底等を図りながら、健康な体づくりのため毎朝のラジオ体操、検温、健康チェックを行った。 ○コロナ禍で水無神社例大祭（みこしまくり）は見学のみとなってしまったが、「木曾の手仕事市」「雪灯りの散歩路」へのボランティアスタッフ参加、木曾こども園児への「しいたけ植菌体験」指導など、できる範囲での活動を徐々に増やし、地域とのつながりを強めた。 ○教務会議を4月から2月までに28回開催し、職員間の情報共有や対策の検討が図られた。 ○専門のカウンセラーを委嘱し、学生の悩み事相談にのっている。		B
	林業機械や施設機器の充実と適正な管理	【継】 寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【継】 学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【継】 教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	○コロナ禍で、前期は寮の部屋割を学年ごとに分けたことで学年間の交流や関係が希薄となったが、後期は感染防止対策の徹底を図りつつ従来の各学年混合の部屋割とし、自ずと学年間での交流が進められ、その後の学生自治会の運営と引継ぎにつなげることができた。 ○代表的な寮の自治会活動である寮祭については、感染防止対策を充分に行った上で10月8日に開催し、学年間の交流、イベント開催のノウハウ等の引継ぎを図ることができた。 ○教務会議を通じて、教授間の情報共有を図り、方向性を明確にしながら、学生自治会との情報共有を図ることができた。		B	
教育設備の充実と適正な管理	林業機械や施設機器の充実と適正な管理	【継】 実習等に必要機械・設備は充分確保されているか。	○チェーンソーについては、最新式を1人1台所持して実習できる体制となっている。 ○労働安全規則改正に伴い、防護スポン、防護ウエア、防護ブーツ、イヤーマフ付ヘルメットなど、安全装備1式をトータルコーディネートを導入を図った。 ○高性能林業機械の一種であるウインチ付グラブを昨年9月に購入し、実習の充実を図っている。 ○演習林の木曾青峰高校との共同利用について昨年9月に打合せを実施した。今後はより具体的な取組みについて議論していく予定。 ●安全操作技術の習得に必要な機械設備が不足している。	高性能林業機械のシミュレータやVRを活用した林業労働安全対策などを進めるとともに、機器の導入について予算要求を行っていく。また、必要な機械更新についても予算要求を行っていく。		B
		【継】 関係機関との連携により、保有していない高性能林業機械分の必要な機械の効率的な利用ができたか。	○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、チェーンソーの保守点検簿が作成されている。		B	
	学校用地や施設の適切な維持管理	【継】 学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【継】 実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	○新しい男子寮が令和3年度末（令和4年3月）に竣工し、令和4年4月から供用開始した。 ○新男子寮の燃料用チップのボイラーへの供給構造に不具合があり、現状では改善が困難なため、学校スタッフと学生が倉庫内でチップを人力でかさ上げることで対応した。 ○新男子寮の排煙用天窓の開閉システムが破損したが、業者から提示の正しい使用方法を寮内に掲示し、朝礼でも学生に操作方法を周知対応した。 ○新男子寮の新ストーブの着火時に煙が室内に充満し、火災報知器が誤作動する事案が生じたため、着火についての講習を実施し対応した。 ○冬季休暇の男子寮・女子寮の水回り凍結防止のため、業者に委託して凍結防止措置を行い、休暇中・休暇明けの事故は無かった。 ●学校スタッフと学生により新男子寮は概ね適正に管理されたが、施設の維持管理を適切に行うは費用がかかり、特に新男子寮については、今後も使用を重ねないと、どこに不具合が生じ費用がかかるか不明な部分がある。	学校管理として必要な維持管理費用を精査し、優先順位をつけた上で引き続き予算要求を行っていく。		B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
学校運営	林大の魅力発信と学生確保の活動	充実した学生募集のPRを実施する。	<p>【継】学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。</p>	<p>○5月に学校案内(パンフレット)及びポスターを「令和5年度対応版」として作成し、過去に受験実績のある県内高等学校、本校への入学実績のある県外高等学校、県内全市町村、県内林業関係団体等に配布した。</p> <p>○6月～7月上旬にかけて行った、県内11の公立農林系高校、33の公立高校への学校訪問や、本校の見学を希望する学生や保護者計9組の学校見学の際にも学校案内パンフレットを活用した。【再】</p>	関係者や産業界へのアンケート・ヒアリング結果を踏まえ、県庁担当課と連携し授業内容の検討を進めていく。【再】	B
			<p>【新】他県にも多くの林業系短期大学校等が設立される中、本校を選んでもらえるよう魅力を発信できたか。</p>	<p>○国内・世界最高レベルのチェーンソー技術の取得を目指すJLC(「日本伐木チャンピオンシップ」)が5月に青森県で開催され、当校から学生代表で7名が参戦し、決勝大会でジュニアクラス2位が1名、レディースクラス3位が1名と優秀な成績を収めた。その競技状況や成果・成績を、学校HPや学校訪問、オープンキャンパス、視察やイベント(寮祭)時等、あらゆる機会を捉えてPRに努めた。</p> <p>○オープンキャンパスや学校見学の際には、極力、新男子寮も案内・見学してもらい、保護者も含めて新しい寮での生活が具体的にイメージ出来るように努めた。</p> <p>○2023年度の入学志願者では、県外からの志願者は昨年度よりも12名増加した。</p> <p>●当校の授業カリキュラムのどこ(どの科目分野)に主眼を置いて魅力を発信していくべきか、他校との差異化を図るための十分な検討が必要である。</p>		B
学校運営	林大の魅力発信と学生確保の活動	充実した学生募集のPRを実施する。	<p>【継】オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。</p>	<p>○オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加人数を制限しながらも、県外者の参加も可能として2回実施し、参加者からは「林大生のスゴ技披露」に大きな関心を寄せていただいた。</p> <p>○過去に受験実績のある県内高等学校を訪問し、進路指導主事等に面会して本校への入学志願者確保に努めた。</p> <p>○2023年度の入学志願者は推薦・一般併せて40名と、前年度の31名を9名上回る結果となったが、推薦入試では、県外志願者は増加したものの、県内は増えておらず、今後も学校訪問活動による当校メリットの積極的なPR活動は欠かせない。</p> <p>●一方で女性の入学志願者は40名中1名にとどまった。女性の志願者、入学者の確保に向けたPR活動が課題となっている。</p>	令和6年度入学の学生募集に向け、学校案内パンフレットの中で女性(在校生・卒業生OB)の活躍をPRする等の方法を検討していく。【再】	B
			<p>ホームページの充実を図る。</p>	<p>【継】魅力的なホームページとなっているか。</p> <p>【継】学校の概要及び取組が適切にPRされているか。</p> <p>【継】必要な情報提供が行われているか。</p>	<p>○現在情報発信の主流となっているSNS(フェイスブック、インスタグラム)には学生が主体となって随時更新を行い、多くの「いいね」をいただいている。</p>	B
	その他	コンプライアンスの実践が図られているか。	<p>【継】法令を順守しているか。</p> <p>【継】予算が適正に執行されているか。</p>	<p>○授業から学校運営に至るまで、法令を順守して実施している。</p> <p>○林務部コンプライアンス行動計画に基づき行動している。</p> <p>○予算執行については、適時的確な予算施行を行っている。</p> <p>●学校運営や学校環境の整備に必要な費用の継続した確保が課題</p>	引き続き予算確保に向けた取り組みを行っていく。	B